



「いわぬま未来構想」の実現に向けた取り組み

佐藤 淳一

問 (現在の)総合計画と(次期)「いわぬま未来構想」の基本理念の違いについて伺う。

市長 これからの岩沼がどのような方向に行くのか、また岩沼がどのようなまちづくりをしたらいいのかということについて、(未来構想では)総論的な方向性を基本理念として打ち出しています。

攻めの事業へ予算配分を

問 人口減少・高齢化などの厳しい社会環境の下で将来都市像を実現するための政策について伺う。

市長 岩沼が持続可能なまち、住み続けてもらえるまちになるよう、同じ政策を行うにしても質の面で相当考えていきたいと思っています。

問 人口減少を受け入れて政策を進めていくのか。あるいは、市のポテンシャルを高めて人口増加策をとっていくのか伺う。

市長 増加政策というのは難しいと思います。(人口が)縮小しても成り立つように、その良さを生かしていきたいと思っています。

問 新しい基本構想の初年度に当

たる平成26年度の予算編成の基本的な考えについて伺う。

市長 震災復興関連事業を最優先に取り組んでいくということと、「健幸」先進都市の前進を図っていきます。財源の見込みを着実に、優先順位を付け、事業の必要性についてゼロから検討していくということが必要だと思います。

新総合計画の実施計画では、

基本目標ごとの事業費に大きな開きがあったと認識している。富を生み出し、まちに活力を与える「人が集まる『産業』づくり」のような攻めの事業への予算配分を厚くするべきと考えるがどうか。

市長 農業・商業政策は、国・県の方向で大きく変わりますので、岩沼独自でも、例えば補助金の上積み程度しかできません。それすらも相当苦慮しています。改めて岩沼の魅力づくり、そういうものも検討していかなければなりません。(構想の)初年度でまた進められればありがたいと思います。

◎その他の一般質問
・農政転換への対応



消防・交通安全・防犯の組織体制

穴戸 幸次

問 消防団体制の現状と今後の体制整備について伺う。

消防長 消防団の条例による定数は350名ですが、平成25年10月1日現在では実員数が294名です。震災で被災した玉浦分団は就労形態が変わったということでの退団により124名となり、分団の定数178名を下回っています。

全国的に消防団員の確保が大きな問題となつていますが、玉浦西地区に新たな部を設けるよう努力するとともに、現団員、消防団OB、地域の皆さまや事業所の協力を頂き、団員の確保と体制の充実に努めていきます。

交通指導隊の体制整備は

問 交通指導隊の現状と今後の体制整備について伺う。

市民経済部長 交通指導隊の主な活動は、児童生徒への街頭での指導・広報、交通安全教室での指導、市主催事業等での交通の指導整理などを行っています。条例では定員40名以内ですが、現在24名体制で交通安全活動を行っています。

◎その他の一般質問
・介護保険事業

広報いわぬま等に掲載し隊員募集をしています。なかなか応募が頂けない状況です。いろいろな機会を捉えて活動のPRと募集のお知らせをしていきます。

問 街路灯と防犯カメラの設置について伺う。

市長 街路灯は交通量の多い主要な交差点、急カーブで見通しの悪いところに設置しています。市民の方から暗いとの指摘もあることから担当レベルで把握し対応していきます。防犯カメラは、施設の管理上設置してきましたが、プライバシーの侵害につながる可能性もあり慎重に検討したいと思っています。

